

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401400		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「くにみの里」		
所在地	長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416		
自己評価作成日	令和4年7月25日	評価結果市町村受理日	令和4年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サービス提供の際は、「やさしい声かけ」「楽しい食事」「快適な施設」「健康管理の徹底」を理念に掲げ、利用者様が安心して過ごしていただけるよう支援しています。
敷地内の畑で季節の野菜を作って収穫されたり、春には敷地内で花見をしながらおやつ時間を設けたりしています。庭には小川があり、散歩がてらベンチで休まれたりと各々楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの庭先には家庭菜園があり、職員と一緒に畑で野菜や果物を育て、入居者が散歩してその生育状況を眺めたり、職員が収穫しながら入居者と一緒に梅干しづくりを行うなど、楽しみながら旬の食材による手作りの食事を味わう喜びを毎日入居者に届けられるよう取り組んでいる。誕生会には入居者の嗜好に沿った食べ物を提供し、寿司・おはぎ・手作りケーキ等が食卓に並び、楽しまれている。ホームは町内会へ加入し、町内の情報を得、地域の一員として活動している。コロナ禍により地域との交流は減少しているが、今年は地域の小学校へ卒業プレゼントとしてプランターに植えた花を提供するなど可能な範囲で地域との交流を継続している。毎月、ホームだよりを発行し、行事の様子などを写真で載せ家族へ知らせており、家族の安心や喜びに繋がっている。職員はミーティングの際に理念を唱和し、理念に沿った支援ができていないかを本社にも報告して理念の意識づけに取り組んでいる。職員はコロナ禍の中、入居者が好きなことやしたい事を見出し、入居者支援に努めていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解・意識をし、職員同士協力しながら介護に取り組んでいる	職員はミーティングの際に「日進グループの理念」を唱和したり、毎日、理念に沿った支援ができていないかを本社に報告して理念の意識づけに取り組んでいる。職員は入居者が好きなことやしたい事を見出し、職員と一緒に畑で野菜を育て収穫を楽しんでもらう取り組みを実践するなど理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、小学校との交流があったが、コロナウイルス感染予防の為、交流ができていない。 小学校への卒業プレゼントは毎年行っている	ホームは地域の町内会へ加入しており、町内の情報を得て地域の一員として活動している。コロナ禍により地域との交流は減少しているが、今年は近隣小学校への卒業プレゼントとしてプランターに植えた花を提供するなど交流を継続している。地域の神社からは神輿がホーム駐車場へ立ち寄り、見学できるよう取り組むなど可能な範囲で地域交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学校・中学校の福祉体験の受け入れをしていたが、コロナウイルス感染症防止の為、中止している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナ禍の為、書面での報告をしている	ホームは2か月毎に運営推進会議を行っている。コロナ禍の為、運営推進会議記録を行政担当者や民生委員などの運営推進委員や家族に送付している。書面には入居者の状況報告・行事・身体拘束ゼロ委員会や面会制限に関する事項を載せて発送し、各委員へ意見や要望を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染予防の為、ケア会議等が中止になっている。必要な場合は、市の担当者へ尋ね、指導を受けている	運営推進会議の委員に雲仙市地域振興課職員がおり、同会議を通じてホームの状況を伝えている。生活保護の方の病院受診の手続きについて雲仙市の福祉課へ相談するなど協力関係を築きながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、玄関の解錠も日中はして、外に出たいと希望される入居者様に対しては、職員が付き添いながら歩き、入居者様が落ち着かれたらホームに戻るように対応を行っている	3か月毎に身体拘束ゼロ委員会を各棟と合同で開催している。職員は身体拘束に該当する行為について認識しており、言葉づかいについても入居者を制止する場面等でどのように対処したら良いかを話し合い、拘束のないケアに努めている。直近では島原半島グループホーム協議会主催の「身体拘束廃止の取り組みと課題」のリモート研修会に参加し研鑽している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、入居者様に対する言葉づかいなどを話し、入居者様に失礼がないように意識をし、毎日接している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を行っている方はいないが、資料を準備しており、ご家族様からの相談に活かせるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、質問等があればその都度説明をしている。改定時には文章を作成し、十分な説明を行い同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	質問を何でも話していただけるように信頼関係を築くように努めている。定期的に電話にて状況報告をし、その際に要望などを伺い、運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望は、家族から電話連絡による要望があった場合も含め、個人記録の特記事項や申し送りノートに記録し職員間で共有している。2か月毎に家族へ運営推進会議録を郵送し、また、ホームだよりを毎月発行して入居者の様子を知らせ、家族の安心や喜びに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務内で職員の意見を管理者会議で報告している。その後、施設長が法人の会議で提案することで反映の機会を得るようにしている	今年度から職員は年1回、本社の経営幹部と個人面談する機会が設けられ、個人目標の設定と実践状況の確認のほか、職員の要望等について聞き、本人のモチベーションアップに繋げている。毎月開催するミーティングにて職員の意見や要望を出し合い、施設長が福祉用具などの購入について本社に掛け合うなど意見を反映している。コロナ禍により、体温計・消毒液・ビニール手袋・フェイスシールド・防護服等を購入した。	今年度より職場でのハラスメント対策が義務化されていることを踏まえ、職場のハラスメントを未然に防止するための対応マニュアルの整備や、相談窓口、職員研修等、ハラスメントを適切に対応するための必要な体制を整備し、職場の雰囲気づくりや、働きやすい労働環境に繋げていくことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事での効率化を図り、長時間の業務にならないように工夫するなどして、声を掛け合っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	R3年度は、各施設での勉強会を行っていた。法人の研修を4月より再開し、毎月開催している。職員は、感染予防の為、少人数での参加を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で同業者と交流することはできなかった		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みがあった際は必ず施設見学を行い、利用前に本人様と面談を行っている。ご家族様から生活状況などを聞き取り、安心して利用できる体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談にてこれまでの話を聞き、不安な事や心配事の要望を聞き取り、入居者を支えられる信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話や動きを見て、今どのように望まれているのか意見を取り入れ、計画に反映させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活支援を行いながら入居されている方からも、家事の手伝いをしてもらえる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で日頃の様子を報告・相談し、家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの美容院に家族が連れていかれたり、受診の帰りに馴染みの店に寄り、買い物ができるよう支援している	コロナ禍により家族や友人と面会する機会は減少している。地域の感染状況に応じてガラス越しの面会や玄関先での面会ができるよう努めている。入居者の希望に応じて病院受診後に本人の自宅近くを通り様子を見たり、正月には地域の神社へ三社参りをするなど馴染みの場所との関係継続を支援している。入居者によっては携帯電話で家族や友人と話ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で、利用者同士が関わりながら、交流ができるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されて退所になられた方の状況を把握し、家族の相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を日々の関わりから聞き取り、職員間で情報を共有している	職員は入居者に不穏な行動がある場合は本人の表情や動きを見て話しかけ、寄り添うようにしている。目が不自由な方には、毎日、今日の天気を知らせたり、食事をする際に献立や茶碗の位置を知らせて入居者自身で食事が摂れるよう支援している。入居者の話を聞いてテレビやでペットの配置を変更するなど本人の暮らしの希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されてから信頼関係を築いていく中で、生活歴等を聞き取り、望む生活に近づけるよう把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録により、生活リズムや心身状態を全員が周知し把握している。家事等を一緒に行い、有する力等の現状把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師・看護師の思いや意見を取り入れ、現状に合った介護計画を作成している	担当職員が介護計画書案を作成し、担当者会議やケアマネージャーと協議して入居者・家族から説明と同意を得て介護計画を作成している。入居にあたり家族や病院等から本人の情報を得、アセスメントを行うと共に、担当職員が立案後の介護計画書の目標の実践状況をモニタリングし、計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等は、個人記録に記載し、全職員が確認できるようにしている。モニタリングを行い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者家族の状況に応じ必要な支援はすぐに対応し、本人・家族に満足していただけるように努めている。窓越してはあがるが、友人と面会を支援するなどしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院や行きつけの商店へ買い物に行ったり、生きがいを失わないよう支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医院での受診を行っている。介護記録や受診ノートを持参し、医師と情報共有できるようにしている 週に一度訪問歯科の往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援している	入居後も本人が希望するかかりつけ医を継続することができ、その場合は家族が受診に同行することで対応している。協力医への受診には職員が同行している。受診後に把握した本人の病変等は家族へ電話連絡して知らせている。受診後、職員は受診ノートに必要事項を記録し共有している。関連事業所に歯科医院があり、定期的な訪問歯科診療により入居者の口腔ケアに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師に詳しく状態を報告し、相談をしている。特変時にはすぐに連絡し、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室を通じ、医師と看護師と情報交換しながら早期退院ができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師と家族と話し合いを重ね、安心して納得した終末期を迎えられるように看取り支援を行っている	看取りの指針を準備し入居時及び看取り期に家族へ説明している。必要に応じて在宅酸素、インシュリン、バルーンカテーテルの医療行為を医療と連携し支援している。重度化した場合は、家族、医師、ホームと相談し、ホームでの支援または入院となる。昨年は実際に看取りを行い、家族からも感謝の声が届いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	5月に消防署の指導のもと、救命救急の講習を受け、全職員に周知してもらっている。又、急変時のフローチャート情報を各居室に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・自然災害に対しても非常食を实际使用して、食事を提供したり、全職員が対応できるように訓練を積んでいる。年3回、日中・夜間を想定して、利用者と共に訓練を実施している	昼・夜を想定した自主避難訓練を同一敷地内にある関連事業所と合同で実施している。火災の避難訓練では、自動火災通報装置の取り扱いや、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施している。地震災害を想定した訓練では、備蓄している食材により調理を行いローリングストック法を実践している。備蓄は敷地内の専用の保管場所で保管管理している。	重要事項説明書に記載している1次避難場所、2次避難場所、3次避難場所について職員の認識が曖昧な部分が見受けられたので再周知を行うと共にBCP(業務継続計画)の策定と訓練を含めた今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度は6月に研修を実施し学び、入居者様の尊重とプライバシーを配慮した声掛けや対応をしている	入居の際に家族に対し広報誌に掲載する個人の写真や居室の入り口の表札、共用空間に掲示する写真等の掲載について同意を得ている。職員の声掛けの際にはその方の尊厳を損ねないように注意している。6月には本社で実施する接遇研修会に参加するなど、その方を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がいつでも自分の思いや希望を伝えられるよう雰囲気作りにも努めている。物事の決定も本人様ができるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースの中に職員が共に入っていくようにして、会話にどのようにしたいかをお聞きして希望に合わせて支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の楽しみになるように好きな洋服を身につけ、してみたい髪型やアクセサリーを自由に選んでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた旬の野菜を台所で一緒に調理してもらったり、味付け・盛り付けや片付けも入居者様が生き生きと行っている	ホームの菜園で採れた旬の野菜や家族や地域の方からの差し入れを調理し提供している。食事の盛り付けや後片付けなど入居者の残存能力を活かした支援に努めている。誕生会には、寿司、おはぎ、ケーキ等、本人の好みの食事を提供している。職員が手作りの料理を提供し、味や盛り付け、量を検討しながら入居者が美味しく食事が摂れるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいように食器や量・硬さ・大きさに工夫加えて食べる楽しさを味わってもらっている。その方の体調に合わせて飲み物を変える支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科の口腔ケア等を受け、助言をもとに一緒に口腔ケアの介助や声かけを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄をチェック表を見てリズムを確認し、トイレでの排泄を促している。失禁時は、ホットタオルでの清拭・更衣・シャワー浴を行い、清潔を保っている	職員は排泄チェック表に記録し、その方のタイミングや状態に応じて排泄を促している。独歩の方や車イスを操作できる方など自立している入居者には職員が見守りながら対応している。昼・夜に応じてパットの大きさや使用量を検討し、家族の経済的な負担軽減に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消につながるように水分を多めに摂ってもらい、食事の工夫を施しながら予防対策をしている。医師への相談を行い、適切な指導を受けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて入浴を促し、入浴剤の使用や温度の好みを聞きながらゆっくりと入浴を行っている。毎日入浴はできる	週3回の入浴を基本として支援しており、本人の希望に応じて毎日でも入浴できる環境を整えている。一番風呂が好きな方に対応したり、入浴を拒否する方には無理強いせず、その方に合わせた声掛けや誘導、時間や日程の変更等柔軟に支援している。入浴剤や季節の菖蒲湯・柚子湯を行い、楽しみながら入浴できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を知る事で就寝時間を把握し、日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝具も天気の良い日に干し、気持ちよく眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳に薬の説明書を貼り、薬の変更があった場合は薬剤師からの説明を受診ノートに記入し、申し送りを行い周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分たちで食べる梅を一緒に漬けて食べるのを楽しみにしている。花を摘んで居室に飾ったり、好きなことができるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、人混みの中歩いて花見はできなかったが、車中からの花見やドライブ等の支援をしている	コロナ禍により外出を自粛しているが、感染対策を講じ、車中より、桜・コスモス・サルビアの花見を行った。敷地内にある菜園には職員が季節の野菜を栽培し、入居者と共に収穫を楽しんでいる。天気の良い日は玄関先に設置しているベンチでおやつやお茶を楽しんだり、広い敷地内を散歩するなど気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診の帰りに本人の希望で買い物ができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は、何時でも利用できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビングは、すべてが視界に入り落着いてくつろげる。 季節に応じた提示物を飾ったり、季節の花を花壇で育てたり生けたり、季節を感じるができる	リビングには季節の折り紙や貼り絵、モールを飾り、季節感を取り入れている。毎日、次亜塩素酸水を用いて拭き掃除を行い、衛生面に留意している。入居者はソファでテレビを見たり、居室で休まれたりと思いおもいに過ごされている。職員が、目が不自由な方に優しく寄り添い傾聴する姿が見受けられるなど、その方の表情や仕草を見ながら接しており、和やかな雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で居室で過ごしたり、お互いの居室を行き来できるように支援している。隣の棟からも自由に遊びに来られている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みに合うように使い、居心地よく過ごせるようにしている	入居の際には、テレビ、整理ダンス、家族の写真など本人が使い慣れた物品を持ち込んでいる。居室の家具やベッドの配置は入居者や家族の要望を聞くと共に介護の動線を考慮している。読書を好む方には居室に本棚を置いて趣味の本を読めるよう配慮するなど本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。居室は毎日清掃し、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	押し車や車椅子利用者の目線の高さに合わせた所に名札を付けて分かりやすくしたり、体が傾いて座られる方に座布団を使い、心地よく過ごせるように工夫している		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やミーティングにおいて皆で唱和し、その理念に基づいたサービスが出来ているか、日々意識づけを行いながら利用者の方へ安心・満足して頂けるよう取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の感染防止の為、外出や外部との交流が困難であった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の感染防止の為、面会の規制や外部との交流の場が減り、実践できてない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催については、コロナウイルス感染予防の為、開催できていない状況になっているが、入退所・活動・サービスの取り組みについて書面にて各関係者へ報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ過とあって行政からはコロナ関連の情報が多く、ケアサービスについての情報・案内は少なかった。 必要に応じて質問等がある時は市の担当者に尋ね指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを大前提としており、出入りなど自由にできるようにしている。 毎月のミーティングで身体拘束についての指針を理解し、周知するよう取り組んでいる又、3か月に1回、身体拘束委員会を開催し、状況報告を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはミーティング等を通して情報共有に努め、見過ごされることがないように注意し、利用者への声掛けなどにも気を付け虐待防止に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている方はいないが資料を用意し家族・職員からの相談に生かせるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明等の内容説明を十分行い、解約・改定の際も文章を発送し理解納得されるよう十分に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望について話して頂けるような信頼関係を築くように努めているが、コロナの影響で面会への規制がある為、定期的に電話にて状況報告し、その際要望等を伺い運営に反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議にて、職員の意見や提案を報告している。その後施設長が本部の会議で提案することで反映の機会を持てるようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の効率化を図り、業務が長時間に及ばないよう工夫し、コミュニケーションを図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会を定期的実施していたが、コロナ過の影響が軽減した為、積極的に社内研修に参加するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナウイルス感染症の影響の為出来なかった		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の不安や困っている事、要望を聞き、安心して生活されるよう生活歴等の情報も把握したうえで、より良い関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と電話にて不安な事や困っている事や困っている事など定期的に聞き取りを行って、入居者様に安心して過ごして頂くよう信頼関係作りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様や家族と交わり、いろんな意見を取り入れ計画を作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見を尊重し、職員がご自身で出来ない事のサービスを行い、コロナ過で家族と一緒に行事など楽しめない分、電話で様子など報告している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で、面会や受診の同行は自粛しているが、日頃の状態を電話にて報告し、入居者様の様子などは月に1度発行の里だよりも記載し、家族と共に入居者様を支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で、馴染みの店や場所に行くことが制限されている為、職員が代行し、本人様の好きなものを購入したり、面会希望をされる方へは電話を利用し関係性が途切れないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの気持ちを汲み取りながら利用者様が孤立しないように声掛けや話の橋渡しをしたりと職員を介して交流が出来るように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際、次の受け入れが未確定時には、家族の不安もある為、一緒に受け入れ先が見つかるまでの支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望・意向の把握について聞き取りを行い、できる限りその方の求めている事に応じている。困難な場合はご家族の方と相談しながら本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人やご家族から聞き取りを行い、利用されていた事業所に情報提供を依頼する等、本人の状況を知ることができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の暮らし方を日々の記録によって生活リズムや心身状態を全員が周知し、把握している。作業など職員と共に行き、有する力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族の思い、職員の意見を反映し、必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れ本人様の現状に合う計画になるよう作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録する中に実践状況・入居者の事での気づきや状況の変化などが分かるように記載し、プランに沿って入居者様が生活出来ているか、職員が把握し共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様とご家族のその時々々の要望や必要な支援は迅速に対応し、本人・家族共に満足して頂けるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルス感染症予防の為に地域との交流を自粛している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院での医療を受けられるようご家族と協力し、通院介助を行っているが、コロナ感染症予防の為に状態や生活状況を主治医へ報告し、薬のみの処方・支援も増えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の看護師訪問にて1週間分の生活における身体等の状況を報告したり、気になる点を相談している。特変時には、すぐに連絡相談し対応の指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院経過報告書を作成し、医療機関や家族とのやりとりの記載を徹底している。早期退院にも繋がるように活用している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に看取りについての指針を記載している。施設内での勉強会にて「看取り」をテーマに行い、安心して納得した終末期を迎えられるよう随時意思確認をしながら取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて救急蘇生法について行い、参加できなかった職員へも周知するよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害に備え、日中・夜間を想定し入居者様と共に避難訓練を行っている。 有事備蓄品の点検も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の思いを尊重することで、思いやりのある声掛けと常に笑顔で対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々コミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。 意思表示が出来ない入居者様の表情などで様子を感じ取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナウイルスの影響により、外出願望を叶えることはできなかったが、寄り添ってお話を聞き少しでも笑顔になれるよう生活を共にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室にて散髪をされ満足されている。 着替えの際好きな服を選んでもらい着衣されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な野菜を取り入れ、美味しく楽しく召し上がれるようにしている。 食前・食後のテーブル拭き・お盆拭きの役割分担し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や嚥下力に応じて食べやすい形態を工夫し、食事を提供している。 食事量を記入したり、水分チェック表を活用し、個々の1日の摂取量を把握できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は本人が出来るところまで歯磨きや入歯磨きをして頂き、その他足りない部分を介助にて衛生管理を行っている。又、歯科往診にて口腔ケアや指導を受ける体制を整えている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄リズムを把握している 一人一人の力や排泄パターンに合わせた支援、残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く摂取して頂ける献立作りをし、水分量も確保できるようにしている 毎朝の体操や立ち上がり練習などの運動を行い個々に応じた予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日通して行っている 入浴できない日が続かないよう声掛けを行い、体調が悪い方は、清拭や更衣を促し、個々に合わせた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室にてその方が休まれる時刻に自由に就寝して頂いている。 室温・加湿についてもその方に合った対応を行っている。 眠れない方には話し相手をし、ゆっくりと安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し、全職員が分かるようにしている。 服薬時には声に出して日付・名前を確認し誤薬予防を行っている。 薬の変更があった場合はその都度周知し、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみや床のモップかけなど出来る範囲で取り組まれている。 施設内に畑を設け野菜を作ったり、花を植える支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症防止の為、実践できていない		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方は少ないが持っていることで安心される方もおられる為、本人と家族との合意の下で少額の金銭を管理して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと要望があれば、いつでも掛けられるよう支援している。 聴力の弱い方の為に代わって通話に対応することもある。 手紙はポストに投函する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いてくつろげる空間になるよう季節感のある壁面装飾を手作りで行い、和むような雰囲気づくりをしている。 庭には季節の花を植え居間から眺められるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士で楽しく会話をされたり、一人になりたいときには自室へ戻ったりできるようにしている。リビングではお好きな場所に座られ、お気に入りの位置で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使い慣れたものを持ち込み居室内の配置は自由にされている。 心地よく過ごして頂けるようその方の個性に合わせた配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室が分かるように目印のなる物を置いたり、共同トイレや脱衣室も分かりやすく示している		